

【展覧会のご案内】

galerie frank elbaz・思文閣共同企画展

Sheila Hicks
Hatano and Bill, Linked Destinies

シーラ・ヒックス——ハタノとビル、結ばれた運命

2025 年 11 月 1 日 – 15 日

10:00–18:00 日祝休廊

思文閣銀座（東京都中央区銀座 5 丁目 3 番 12 号 壹番館ビルディング）

思文閣銀座では、パリの画廊 galerie frank elbaz（ギャラリー・フランク・エルバズ）との共同企画展「シーラ・ヒックス——ハタノとビル、結ばれた運命」を開催いたします。

Sheila Hicks（シーラ・ヒックス）は 1934 年アメリカ・ネブラスカ州ヘイスティングズ市に生まれ、1960 年代以降パリを拠点に活動してきました。イエール大学で画家ジョセフ・アルバースに師事し、モダニズムの精神を受け継ぎながら、先コロンブス期の織物文化にも深く根ざした作品を制作し、ウールやリネン、コットンなど日常的かつ普遍的な素材を用いて、結び、巻き、折り、ねじり、積み重ねることで、展示空間に応じて形を変え、常に新たな表現を生み出し続けています。2025 年 8 月には、SFMOMA（サンフランシスコ近代美術館）にて新作のサイト・スペシフィック・インスタレーションを含む個展を開催し、9 月には、パリのケ・ブランリ美術館でも「旅する糸 Le fil voyageur」と題する新たな展覧会が始まります。さらに、彼女の主要な作品は現在、ドイツのヘレンキームゼー宮殿で開催されている「ピナコテーク・デア・モデルネコレクション展」にも出品されており、今年 91 歳を迎える彼女の活動は、国際的に高い評価を得ながら、ますます広がりを見せています。

本展のタイトル「ハタノとビル——結ばれた運命」は、ヒックスの家族の歴史に基づいたエピソードに由来しています。1950年代初頭、大学で学んでいた彼女の兄ビル・ヒックスは、日本人学生ハタノと深い友情を築きました。戦後の緊張した時代背景の中で、多くの人がハタノとの同居を避ける中、ビルは彼と部屋を共有することを選びました。それは共感に満ちた生涯にわたる友情の始まりであり、文化や背景を超えて結ばれ、織り込まれた運命の象徴でもあります。

本企画は、思文閣銀座という空間に呼応して構成され、小作品「Minimes」から、大型の糸のパネル、そして柔らかな球体「Boules」のインスタレーションまで、ヒックスの多面的な創作の魅力をご紹介します。この展覧会は、1990年代に静岡・富士市文化会館で展示された初期の大規模なインスタレーションから、東京・トライセブン六本木の最新作に至るまで、長年にわたる制作の軌跡とも共鳴するものです。

彼女の柔らかく触覚的な作品は、モダニズムの形式主義と非西洋の伝統を融合させ、常に斬新な手法によって素材と対話し、探求することによって、観る者に開かれた空間を提供します。また、本展によせて、造形作家・批評家でもある岡崎乾二郎氏によるエッセイをご寄稿いただきました。彼女の制作活動への深い洞察が窺える文章とともに、シーラ・ヒックスの世界をご体感ください。

【お問い合わせ先】思文閣 HP | <https://www.shibunkaku.co.jp>

Tel: 京都（本社） 075-531-0001（担当：丸山）

銀座（会場） 03-3289-0001（担当：古）

E-Mail: info@shibunkaku.co.jp [@shibunkaku](https://www.instagram.com/shibunkaku)